

2025 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないでできるだけわかりやすく記述してください。

本センターでは、環太平洋地域を中心に、広い時間的・空間的スケールをもつ人類史的視点から、環境変動、災害、食糧危機に対する社会・文化のレジリエンスを解明することを目的として、古気候学、環境考古学、考古学、歴史学、地理学、文化人類学、政策科学、情報工学、経営学などによる学際的研究を推進している。第 4 期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラム「人類史的にみた災害・食糧危機に対するレジリエンス強化のための学際的研究拠点」と緊密に連携し、2025 年度は、過去の環境変動と社会変化の解明、現代社会の脆弱性と対応力の分析、研究成果の社会実装と発信を柱として、以下の成果を得た。

1. 環境変動・災害・食糧危機に関する人類史研究

R-GIRO 研究プログラムの気候変動とインフラ技術に関する研究では、過去の気候変動を人間の生活に近い数十年単位で復元するため、福井県水月湖およびグアテマラのペテシュバトゥン湖の年縞堆積物の分析を進めた。年縞を用いて過去の気候や環境の変化を高い時間解像度で読み解き、急激な気候変動が人間社会に及ぼした影響を検討している。また、弥生時代における気候変動と社会変化の関係を明らかにするため、奈良県唐古・鍵遺跡の発掘調査と炭素 14 年代測定に基づく高精度編年の構築に当センターの研究員が参画した。さらに、ペルーの古代水路・道路などの社会インフラについて、環境や社会の変化への適応、保存、地域活用の観点から調査を継続した。これらの研究は、自然環境と人間社会との長期的な相互作用を実証的に捉え、現代の気候危機や社会基盤の持続可能性を考えるための重要な知見を提供するものである。

2. 過去と現在の社会におけるレジリエンスの解明

R-GIRO 研究プログラムの歴史学・考古学分野では、石見国幕府領の年貢関係史料を用いて、近世日本における気候変動と農業生産力の関係を分析するとともに、近江国膳所藩の備荒貯蓄政策や救荒食に関する研究を進めた。これにより、過去の社会が食糧危機に備えるため、平時から制度、備蓄、地域の知識を組み合わせていた実態が明らかになった。また、琵琶湖の葛籠尾崎湖底遺跡の調査を継続し、長期的な環境変化に対する縄文社会の対応と地域社会の持続性について検討した。現代社会に関しては、モンゴルの寒雪害「ゾド」と牧畜社会の適応、グローバル・サプライチェーンの脆弱性、東日本大震災に由来する漂流物と海洋生態系の越境的問題などを分析した。これらを通じて、レジリエンスが単なる災害後の回復ではなく、知識、制度、社会関係、生活資源を維持し、必要に応じて再編・創出する複合的な能力であることを具体的に示した。

3. 研究成果の応用、発信および学際的研究拠点の形成

人文社会科学の成果を社会課題の解決に結びつけるため、地域住民の多様な語りを企業や自治体の将来構想に反映する「複声的なビジネスプラットフォーム」の研究を進めるとともに、食料安全保障、災害、文化的多様性を体験的に学ぶシリアスゲームの試作と教育利用を進めた。2025 年 11 月には「レジリエンスを語る―昔の知恵から未来のヒントまで」をテーマとするラウンドテーブルを開催し、研究成果を一般市民に公開した。また、分野横断型の「方法論研究会」を継続し、各分野の研究手法と知見を共有することで、学際研究の深化と若手研究者の育成を図った。研究成果は、国内外の学術誌、著書、講演、報道等を通じて発信し、『環太平洋文明研究』第 10 号を刊行した。さらに、歴史・文化研究から得られた知見を現代と未来の課題に生かす一般向け書籍の出版企画を進め、学術研究を社会に還元するための基盤を整備した。

以上の成果により、本センターは、自然科学と人文社会科学を横断し、過去の実証研究を現代社会の課題解決と未来構想へつなぐ学際的研究拠点としての役割を一層強化した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		小川 さやか	先端総合学術研究科	教授
運営委員		中川 毅	総合科学技術研究機構	教授
		サウセド・ダニエル	政策科学部	准教授
		鎌谷 かおる	食マネジメント学部	教授
		河角 直美	文学部	教授
		矢野 健一	文学部	教授
		NOXON Corey Tyler	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教
		宮脇 昇	政策科学部	教授
		玉井 良尚	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教
		村尾 るみこ	立命館グローバルイノベーション研究機構	助教
		井登 友一	経営学部	教授
		上平 崇仁	共通教育推進機構	教授
		長友 朋子	文学部	教授
		中村 大	共通教育推進機構	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		北場 育子	総合科学技術研究機構	准教授
		保井 智香子	食マネジメント学部	教授
		後藤 智	経営学部	教授
		山上 亜紗美	政策科学部	授業担当講師
		シン・ジュヒョン	衣笠総合研究機構	助教
		早川 貴	食マネジメント学部	教授
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	郡山 志保	立命館グローバルイノベーション研究機構	研究員
		小澤 麻帆	立命館グローバルイノベーション研究機構	研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生			
	学振特別研究員(PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)				
客員協力研究員		福田 耕治【上席】	早稲田大学政治経済学術院	教授(名誉教授)

	藤木 利之	岡山理科大学理学部基礎理学科	准教授
	北川 淳子	福井県年縞博物館	学芸員
	那須 浩郎	岡山理科大学教育推進機構基盤教育センター	准教授
	山田 和芳	早稲田大学人間科学学術院	教授
	小野 林太郎	国立民族学博物館 学術資源研究開発センター	教授
	福本 侑	島根大学エスチュアリー研究センター	客員研究員
	尾関 清子	東海学園女子短期大学	名誉教授
	市木 尚利	東海学園女子短期大学	
	宮多良 ディスネル	関西大学	非常勤講師
	中嶋 直樹		
	真邊 彩	(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター	
	福本 繁樹	金沢美術工芸大学	客員教授
	魚津(東村) 純子	福井大学国際地域学部	准教授
	坂本 勇	元吉備国際大学 東京修復保存センター	教授 顧問
	富田 敬大	神戸大学大学院国際文化学研究科	特命助教
	稲垣 文昭	秋田大学大学院国際資源学研究科	教授
	森下 直紀	三重県立看護大学	准教授
	近藤 宏	神奈川大学人間科学部	准教授
	内尾 太一	静岡文化芸術大学 文化政策学部	准教授
	劉 振業	龍谷大学	非常勤講師
	三輪 佳子	自営業	
	高橋 拓	文化資源活用工房ロフト	代表
	SAKATA GONZALES Yuri Alithu	立命館高等学校	講師
	高木 仁	立命館大学 文学部	非常勤講師
	Thom Brian	University of Victoria	Professor
	木村 道德	滋賀県琵琶湖環境センター	専門研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	荘司 一步	山形大学人文社会科学部	講師
	山田圭太郎	山形大学理学部	講師
	松本 雄一	国立民族学博物館人類文明誌研究部	准教授
	山本 睦	山形大学人文社会科学部	准教授
	富田 敬大	神戸大学国際文化学研究科	特命助教
	斎藤 賢爾	早稲田大学	教授
	西尾 善太	愛媛大学	専任講師
	アレキサンダー・フランケ	豪州アデレード大学	研究員

	有馬 恵子	日本学術振興会	特別研究員
	福田 浩久	日本学術振興会	特別研究員
センター構成員 計 57 名 (うち学内の若手研究者 計 4名)			
Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。			
本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を <u>全て</u> 記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。			

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	小野林太郎	『舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし』	共著	2025 年 9 月	河出書房新社	後藤明, 海部陽介, 宮原千波, 岸上伸啓, 門田修, 門馬一平, 大林龍矢, 長津一史, 須藤健一, 板井英伸, 宮澤京子, 明星つきこ, 江上幹幸	
2	小野林太郎	『海道人類史—海域アジア・オセアニアの基層文化論』	単著	2026 年 3 月	海域アジア・オセアニア叢書 1		
3	小野林太郎	「ウォーレンシアにおける島嶼・海洋適応」	共著	2026 年 3 月	『環境適応のホモ・サピエンス史—アジア狩猟採集民からの視点』	池谷和信, 齋藤玲子	pp.143-157
4	小野林太郎	「人類の移動史と海域アジア・オセアニア—基層文化からみる海域世界」	共著	2026 年 3 月	『グローバル地域研究を知るための 50 章』	三尾稔編	pp.70-174
5	北川淳子	「過去の人間活動を解き明かす花粉分析」	共著	2025 年 9 月	『先端分析技術で鮮やかに読み解く 文化資源が秘めた歴史物語』	阿部善也, 村串まどか, 三木健裕, 黒沼太一, 近藤康久, 岩本崇, 辻幸一, 長柄毅一, 渡辺万三志	pp.60-63
6	東村純子	「正倉院宝物特別調査 筵調査報告」	共著	2026 年 3 月	『正倉院紀要 48』	高部圭司, 宮本史典, 三田寛之, 山根靖之, 下川定	pp.1-46
7	藤木利之, 山田和芳	『島嶼環境史学への招待—アーカイブからひもとく災害レジリエンス—』	共著	2025 年 7 月	近未来社	奥野充, 遠田晋次, 三浦大助, 早川宗志, 宝田晋治, 清杉孝司, 栞畑光博	
8	福本繁樹	「京都市立芸術大学ニューギニア未開美術調査隊」の顛末「ニューギニア未開美術調査隊日記」	共著	2026 年 2 月	『京都市立芸術大学ニューギニア未開美術調査隊日記』	畑中英二	pp1-9, pp13-97
9	内尾太一	『津波の人類学: 海を越えた東日本大震災』	単著	2026 年 2 月	東京大学出版会		
10	玉井良尚	「水をめぐる暴力」	共著	2025 年 11 月	『平和と民主主義を考える』, ナカニシヤ出版	岩崎正洋, 宮脇昇編	pp.145-161
11	玉井良尚	「資源」	共著	2026 年 3 月	『新グローバル公共政策第 3 版』, 晃洋書房	庄司真理子, 宮脇昇, 玉井雅隆編	pp.200-215
12	Takahiro Tomita	「Rural Transitions in Mongolia and Central Asia: Pastoralism, Wellbeing and Economic Relations」	共著	2026 年 2 月	“Reconstruction of Pastoral Management and Local Milk Supply in Suburban Areas in Mongolia”, The White Horse Press	Ariell Ahearn, Gantulga Munkherdene, Takahiro Ozaki (eds)	pp.163-183
13	富田敬大	「小規模酪農から考えるモンゴルのフードセキュリティ—その来し方、行く末」	共著	2026 年 3 月	『グローバル地域研究を知るための 50 章』, 明石書店	三尾稔編	pp.263-267
14	宮脇昇	「沈黙を政治学的に考える意義と方法」	単著	2026 年 2 月	『なぜ黙るのか』, ヌース出版	沈黙研究会編	pp.12-26
15	有馬恵子	「京都出町のエスノグラフィ・ミセノマの商世界」	単著	2025 年 7 月	青土社		
16	小川さやか	„청강맨션의 보스는 알고	単著	2025 年 6 月	ガラパゴス出版		

		있다기존의 호혜, 증여, 분배 이론을 뒤흔드는 불확실성의 인류학/チョンキンマンシヨンのボスは知っている アングラ経済の人類学《韓国語訳版》”					
17	小川さやか	『教養としてのフードテック リベラルアーツで問い直す「食の本質価値」』	共著	2025 年 12 月	日経 BP 社	松島倫明, 田中宏隆, 岡田亜希子ほか 15 人	
18	上平崇仁	「(解説)つくりつけられる人間以上の絡まり合い“ポストヒューマニズムデザイン 私たちはデザインしているのか?”」	共著	2025 年 7 月	『ポストヒューマニズムデザイン：私たちはデザインしているのか?』明石書店	ロン・ワッカリー著, 森一貴, 水上優, 比嘉夏子訳	pp.339-353
19	上平崇仁	『ひとしづくの物語に、世界は漂う/ナラティブ・イン・デザイン、すみみ町での実践』,	共著	2026 年 2 月	X デザイン出版	石井孝之, 牛丸維人, 山崎和彦, ナラティブとアクションリサーチ研究会	
20	シン ジュヒョン	「ゲームと教育：シリアスゲームの可能性を考える」	共著	2025 年 5 月	日外アソシエーツ	日向良和, 高倉暁大, 福田一史編	pp.220-226
21	シン ジュヒョン	「ゲームと教育：シリアスゲームの可能性を考える」	共著	2025 年 5 月	『図書館にゲームを!：図書館の新しい可能性』,日外アソシエーツ	日向良和, 高倉暁大, 福田一史編	pp.220-226

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Ikuko Kitaba, Takeshi Nakagawa	"Revealing the timing and dispersal of large explosive eruptions at Aso volcano (Japan) by integrating proximal and distal tephra records over the last 130 kyrs"	共著	2025 年 9 月	Journal of Volcanology and Geothermal Research, 108436	Sophie O Vineberg, Paul G Albert, Danielle McLean, Takehiko Suzuki, Yasuo Miyabuchi, Hideo Hoshizumi, Hannah M Buckland, Gwydion Jones, Fumikatsu Nishizawa, Richard A Staff, Keitaro Yamada, Junko Kitagawa, Christina J Manning, Takeshi Nakagawa, Victoria C Smith,SG14 Project Members		有
2	Takeshi Nakagawa	"Orbital-scale East Asian monsoon variability since the last interglacial inferred from the sediments of Lake Suigetsu, Japan"	共著	2025 年 9 月	Quaternary Science Reviews 368, 109566	Alexander Francke, Jonathan J Tyler, Richard Staff, Danielle McLean, Vanessa Nowinski, Megumi Saito-Kato, John Tibby, Minoru Ikehara, Yusuke Yokoyama, Katsuya Gotanda, Tsuyoshi Haraguchi,		有
3	Ikuko Kitaba, Takeshi Nakagawa,	"Landscape-wide cosmogram built by the early community of Aguada Fénix in southeastern Mesoamerica"	共著	2025 年 11 月	Science Advances, 11, 45, eaea2037, DOI: 10.1126/sciadv.aea2037	Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Verónica A Vázquez López, Melina García Hernández, Juan Carlos Fernandez-Diaz,		有

						Ashley E Sharpe, Claudia Alvarado, Atasta Flores, Xanti Ceballos, Kelsey E Hanson, Ran Chen, Timothy Beach, Takayuki Omori, Hiroo Nasu, Kazuo Aoyama, Keitaro Yamada,		
4	Takeshi Nakagawa, Ikuko Kitaba,	“Tracking millennial-scale climate variability during the last glacial period using aquatic productivity indicators from Lake Suigetsu, Japan”	共著	2025 年 12 月	Quaternary Science Reviews, 369, 109624,	Vanessa Nowinski, Alexander Francke, John Tibby, Tony Hall, Jonathan Tyler,		有
5	Ikuko Kitaba	“Evidence that the Aso-3 caldera-forming eruption (southwest Japan) marks the termination of Marine Isotope Stage (MIS) 6”	共著	2026 年 3 月	Quaternary Science Reviews, 377, 109837	Danielle McLean, Paul G. Albert, Gwydion Jones, Richard A. Staff, Anja Francke, Sophie O. Vineberg, Jennifer J. Tyler, Masafumi Saito-Kato, Takuya Sagawa, Kazuhiko Kaneko, Hannah M. Buckland, Takehiko Suzuki, Jun-Ichi Kimura, Qiong Chang, Hiroshi Hoshizumi, Yuki Miyabuchi, Christina J. Manning, Keitaro Yamada, Ken Ikehara, SG14 Project Members, Takahisa Nakagawa, Victoria C. Smith,		有
6	Noxon, Corey , Kenichi Yano	"Archaeological 3D Scanning in Context: Multi-scalar 3D Capture and Visualization from the Final Jomon Period Sugisawa Site"	共著	2025 年 8 月	ART RESEARCH” , 京都: 立命館大学アート・リサーチセンター, Vol.26		pp.3-15	有
7	山本睦	「食を切り口とした人々の移動とネットワーク」	単著	2025 年 11 月	『華僑華人研究』, 日本華僑華人学会, 22 巻		pp. 69-87	有
8	Hiroo Nasu	“The discovery of adzuki bean (Vigna angularis) in eastern China during the 9th millennium BP and its domestication in East Asia.”	共著	2025 年 9 月	『 Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America』 122 巻 39 号	Xuexiang Chen ・ Zejuan Sun ・ Shuhan Zhang ・ Gyoung-Ah Lee ・ Fei Zhang ・ Haohong Cai ・ Xu Liu ・ Jixi Gao ・ Chao Zhu ・ Jianfeng Lang ・ Zhijun Zhao ・ Xinyi		有

						Liu		
9	Hiroo Nasu	“Landscape-wide cosmogram built by the early community of Aguada Fénix in southeastern Mesoamerica”	共著	2025 年 11 月	Science Advances, 11, 45, eaea2037, DOI: 10.1126/sciadv.aea2037,	Takeshi Inomata, Daniela Triadan, Verónica A Vázquez López, Melina García Hernández, Juan Carlos Fernandez-Diaz, Ashley E Sharpe, Claudia Alvarado, Atasta Flores, Xanti Ceballos, Kelsey E Hanson, Ran Chen, Timothy Beach, Takayuki Omori, Hiroo Nasu, Kazuo Aoyama, Keitaro Yamada,		有
10	那須浩郎	「遺跡の雑草種子から過去の水田の特徴を探る—舞岡公園実験水田における雑草植生と埋土種子の関係—」	単著	2025 年 12 月	『人類誌集報』20 号		pp.25-28	有
11	那須浩郎	「日本列島における雑草フロアの形成」	単著	2025 年 8 月	『植調』59 号		pp 146-153	無
12	Ono,Rintaro	「ZooMS as a tool for understanding prehistoric pelagic fishing: Insights from archaeological shark and scombrid remains on Fais Island, Micronesia, over the last two millennia」	共著	2025 年 10 月	『Journal of Archaeological Science』184 巻	Clara Boulanger, C. , M. Intoh , M. Buckley		有
13	Ono,Rintaro	「Late Pleistocene to Holocene Seafaring in Near Oceania and Wallacea: Archaeological and Ethnographic Evidence」	共著	2025 年 10 月	『国立民族学博物館研究報告』49 巻 3 号	T. Akimichi	pp.389-432	有
14	Ono,Rintaro	「Early Metal Age dentate-stamped pottery and jars in Wallacea: A case of the Goa Topogaro Complex in Central Sulawesi」	共著	2025 年 12 月	『SPAFA Journal』9 巻	H. O. Sofian , N. Aziz , Sriwigati , N. Alamsyah , Ni Luh Gde Dyah Mega Hafsari , A. Arung Qalam , and A. A. Oktaviana	pp.141-171	有
15	木村道徳	「中山間地域における除雪行動の空間構造分析～住民協働型シミュレーションの計画論的意義～」	共著	2025 年 8 月	『計画行政』第 48 巻第 3 号	小野聡	pp. 50-60	有
16	郡山志保	「郡山藩近江国飛地領支配の変容—海津役所役人層の分析から—」	単著	2025 年 6 月	『ヒストリア』,310 号, 大阪歴史学会		pp.49-67	有
17	郡山志保	「近江国膳所藩の備荒貯蓄政策—安民禄を事例として—」	単著	2026 年 3 月	『環太平洋文明研究』,環太平洋文明研究センター,10 号		pp.1-23	有

18	Toshiyuki Fujiki, Kazuyoshi Yamada.	「Pollen analysis of sediment core from Yukashigata Lagoon, western Japan: revealing human induced paleovegetation changes during the past 1500 years」	共著	2025 年 12 月	『Terrestrial, Atmospheric and Oceanic Sciences』36 卷	Toshimichi Nakanishi, Kaoru Tabata, Haruhiro Ikeda		有
19	福本侑	「隠岐諸島島後、女池における過去約千年間の水環境変化」	共著	2025 年 2 月	『Laguna (汽水域研究)』第 32 巻、島根大学・エスチュアリー研究センター	香月興太, 中西利典, 北川浩之, 汪良奇	pp.37-49	有
20	保井智香子	「大学生男子陸上長距離選手の貧血予防に対する食意識・食習慣と競技能力との関連」	共著	2026 年 1 月	『日本健康体力栄養学会誌』, 日本健康体力栄養学会, 第 29・30 巻第 1 号	永田一輝, 中村絵美, 川上由紀子, 高尾理樹夫	pp.18-24	有
21	Fukuda Koji	「Public Attitudes and Predictors of Public Awareness of Personal Digital Health Data Sharing for Research: Cross-Sectional Study in Japan」	共著	2025 年 9 月	JMIR Human Factor, 2025	Fukuda Yasue		有
22	Fumiaki Inagaki	「Ground source heat pump systems in Central Asia: A case study from Dushanbe, Tajikistan」	共著	2025 年 5 月	Geothermics, 128	Saeid Mohammadzadeh Bina, Hikari Fujii, Dursulton Qaisova, Richard Lein, Jamshed Rahmatov,		有
23	Taichi Uchio	「Beyond Human Migration: Cross-Border Ethnography of Tsunami, Debris, and Marine Species from 3.11 Tohoku, Japan」	単著	2025 年 9 月	The Asia Pacific Journal of Anthropology. (https://doi.org/10.1080/14442213.2025.2528631)			有
24	Takahiro Tomita	「The Adaptation and Resilience of Pastoralists during the Covid-19 Pandemic in Mongolia, “Nomadic Peoples”」	共著	2025 年 12 月	“Nomadic Peoples”	Ariell Ahearn, Gantulga Munkherdene, Sainbayar Enkhbat, Akira Kamimura, Buho Hoshino, Chieko Hirota, Takahiro Ozaki, Troy Sternberg, Batbuyan Batjav, Moe Terao, Yuki Morinaga,	pp.1-25	有
25	村尾るみこ	「元難民の経済活動が創る場所―地域統合政策下のザンビアにおける難民セトルメントと再定住地に注目して」	単著	2025 年 9 月	『文化人類学』90(2), 日本文化人類学会			有
26	荘司一步	「ペルー中央海岸におけるプラヤ・クレパス遺跡の発掘調査: 2024 年度概報」	単著	2025 年 10 月	『マテリアマインド: 物心共創人類史学の構築 2024 年度研究活動報告書』, 岡山大学文明動態学研究所	松本直子編	pp.45-47	無
27	郡山志保	「近世堅田の芸能興行」	単著	2026 年 3 月	『堅田の歴史と史料』, 堅田大庄屋文書研究会, 2 号		pp.29-36	無

28	矢野健一	「岡山県高島黒土遺跡発掘と神武東征神話」	単著	2026 年 2 月	『立命館文學』,立命館大学人文学会,696 号		pp.1-10	無
29	矢野健一	「縄文集落と貯蔵穴の対応関係」	単著	2026 年 3 月	『千葉豊先生退職記念論集』, 関西縄文文化研究会		pp.326-339	無
30	矢野健一	「人口論からみた地域社会」	単著	2026 年 3 月	『第 20 回記念研究集会 関西縄文社会の集落と地域社会Ⅱ 発表要旨集』, 関西縄文文化研究会			無
31	Noxon, Corey	「Archaeological craftwork 2024 : ethnography of archaeology at Suwahara site, Hokuto City, Yamanashi 2024」	共著	2025 年 6 月	『慶應義塾大学日吉紀要. 人文科学』,慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会,Vol.40	ERTL, John, 吉田泰幸	pp.1-42.	無
32	富田敬大	「社会主義モンゴルにおける家畜と人間の関係—牧畜の産業化は何をもたらしたか」	単著	2025 年 12 月	『史潮』, 98 号		pp.23-39	無
33	富田敬大	「コメント—生産の現場から考える食料システムとフードセキュリティ」	単著	2026 年 3 月	『じんるいけん Booklet』, 10 号		pp.57-63	無
34	上平崇仁	「デザイン教育者の環世界—わたしのゼミの活動構成をリフレクティブ・エッセイで捉える」	単著	2025 年 5 月	『デザイン学研究特集号「環世界のまんなかでデザインする」』,32 巻 1 号, 日本デザイン学会		pp.18-26	無
35	シン ジュヒョン	「ゲームアクセシビリティから考える「すべてのプレイヤーがゲームを楽しむ世界」を目指して」	単著	2025 年 7 月	『視覚障害』,446 号, 視覚障害者支援総合センター		pp.16-21	無
36	西尾善太	「戦争の車からいのちの車へ—マニラのジープニーと人びとの歩み」	単著	2025 年 7 月	『季刊民族学』,193 号, 国立民族学博物館友の会		pp.32-39	無
37	井登友一	「人間中心デザインの次の 20 年を考える—私たちがデザインしたモノによって、私たちがつくられていく時代に—」	単著	2025 年 12 月	人間中心設計, 21(3)		pp.1-2	無
38	中村大	「人口と儀礼の考古学からデザイン・アートの考古学へ」	単著	2026 年 3 月	『環太平洋文明研究』,環太平洋文明研究センター, 第 10 巻		pp.91-103	無
39	村尾るみこ	「ザンビアの難民政策—政治体制と国際規範との関係を中心に」	単著	2026 年 3 月	『環太平洋文明研究』, 環太平洋文明研究センター, 第 10 巻		pp.76-89	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Atsushi Yamamoto	Oscar Arias Espinoza, Ryan Clasby 「Pacopampa and the Development of Social Complexity in the Jaén Region」 Oscar Arias Espinoza, Ryan Clasby 「Pacopampa and the Development of Social Complexity in the Jaén	2025 年 4 月	Society for American Archaeology,90th Annual Meeting, Denver, USA,	

		Region]			
2	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Arqueología Pública y Política en áreas urbanas: Problemas y perspectivas en la administración del patrimonio cultural del distrito de La Molina (Lima, Perú)」	2025 年 5 月	Confederacion Academica Nipona, Española y Latinoamericana CANELA, XXXVI Congreso Internacional, Okinawa, Japan,	
3	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Proyecto Nikkei+R: Creando núcleos de investigación interdisciplinaria sobre la inmigración transnacional entre Japón y Latinoamérica」	2025 年 5 月	Confederacion Academica Nipona, Española y Latinoamericana CANELA, XXXVI Congreso Internacional, Okinawa, Japan,	YOTOVA Maria, CABANA ROJAS Isabel
4	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Archaeologists as Facilitators: Archaeological Heritage and Social Cohesion in Lima, Peru」	2025 年 6 月	World Archaeological Congress, 10th World Archaeological Congress, Darwin, Australia,	
5	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Sitios arqueológicos y áreas verdes: Problemas y posibilidades de la planificación de parques sobre el Patrimonio Arqueológico urbano en Lima, Perú」	2025 年 6 月	Congreso Internacional de Americanistas, 58º Congreso Internacional de Americanistas, Novi Sad, Serbia,	
6	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Sitios arqueológicos monumentales y participación vecinal: Redefiniendo el valor del patrimonio arqueológico en áreas urbanas de Lima, Perú」	2025 年 7 月	Congreso Internacional de Americanistas, 58º Congreso Internacional de Americanistas, Novi Sad, Serbia.	
7	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Historical Roads as Cultural Resources in Japan: The Potential of Community Based Initiatives」	2025 年 7 月	Bergamo University, International Workshop on Gastronomy and Rural Tourism, Osaka, Japan	
8	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Desafíos y posibilidades de las asociaciones peruanas en Japón: La Asociación Académica Peruano Japonesa – APEJA」	2025 年 9 月	Ritsumeikan University, Simposio Internacional Perspectivas Interdisciplinarias de la migración peruana al Japón, Osaka, Japan	
9	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Muerte e identidad: El testimonio de las lápidas en las tumbas de la comunidad nikkei en Perú」	2026 年 2 月	Roundtable “Cruzando el mar y el tiempo: Adaptacion y cambio en las comunidades de diaspóra entre Peru y Japon”, Instituto Riva-Agüero and Research Center for Pan-Pacific Civilizations, Lima, Peru · Pontificia Universidad Catolica del Peru,	
10	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「Memoria Social y Patrimonio Cultural: Hacia una definición e integración del patrimonio cultural Nikkei en la formación de la identidad nacional peruana」	2026 年 3 月	Roundtable “Memoria e identidad: Discutiendo el Patrimonio Cultural Nikkei en el Peru”, Instituto Riva-Agüero, Research Center for Pan-Pacific Civilizations, Yuyai-UNI Grupo de investigación de patrimonio cultural, Lima, Peru · Museo de Minerales Andres del Castillo	
11	Kaoru Kamatani	「Reconsidering Fishing Rights in Early Modern Japan-Exploring the	2025 年 9 月	東アジア環境史学会 (AAEH) ,香川県高松市	

		Boundaries between History and Actual Use]			
12	Noxon, Corey	「Multiscalar Digital Recording of Archaeological Features and Pottery Remains at the Suwahara Site, Yamanashi Prefecture, Japan」	2025 年 4 月	Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology (CAA), Digital Horizons: Embracing heritage in an evolving world, Athens, Greece	
13	Noxon, Corey	「Residential Mobility and Intended Use Life: Utilizing 3D Scans of Reconstructions to Compare Material and Energy Costs of Jomon Pithouse Configurations」	2025 年 8 月	Society for East Asian Archaeology (SEAA), The 10th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Aberdeen, UK	
14	Noxon, Corey	「Bringing Archaeology to Young Learners Through AR and VR Technologies」	2025 年 8 月	Society for East Asian Archaeology (SEAA), The 10th Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, Aberdeen, UK	Erin Noxon
15	Hiroo Nasu	「Why was domestication of barnyard millet so late? : insight from archaeobotanical records in Japan. Lost crops and forgotten fibers: Symposium on understanding ancient plants and textile production」	2025 年 6 月	Hangzhou, China, 浙江大学 (招待講演)	
16	Hiroo Nasu	「Experiments on the management and propagation of wild azuki bean (Vigna angularis) populations using fire: Toward understanding the management of wild azuki bean populations by Jomon people in prehistoric Japan. 20th Conference of the International Work Group for Palaeoethnobotany, Groningen,」	2025 年 7 月	The Netherlands, フローニンゲン大学	Hideki Takada, Masahisa Yamada
17	Hiroo Nasu	「Domestication of azuki bean from the perspective of archaeobotany in Japan. International workshop: Promoting integrative bioarchaeological studies on human prehistory」	2025 年 12 月	Taipei, Taiwan, 国立台湾大学	
18	Junko Kitagawa	「Cultural development has narrowed the range of tree utilization in reference to Wakasa area, Japan」	2025 年 6 月	Annual Meeting of the Society for Ethnobotany 2025, Czech University of Life Sciences Prague, Prague, Czech	Hideaki Kojima
19	Inagaki Fumiaki	「Management Challenges Associated with Wastewater in The Republic of Tajikistan」	2025 年 6 月	International Political Studies Association, IPSA World Congress: Seoul 2025, Seoul, Republic of Korea	Samadov Ramazon, Azizov Somon

20	Inagaki Fumiaki	「Renewable Energy Implementation and Policy Development in Tajikistan」	2025 年 6 月	International Political Studies Association, IPSA World Congress: Seoul 2025, Seoul, Republic of Korea	Azizov Somon, Samadov Ramazon,
21	Inagaki Fumiaki	「Examining energy access in resource-rich developing countries: the case of Mozambique」	2025 年 11 月	9h AIEE Energy Symposium, Sapienza University of Rome, Rome, Italy	Chocoroua Omar,
22	Noboru Miyawaki	「The possible security cooperation of the future multilateral framework in NEA from viewpoint of Japan; Defense cooperation responding to the large scale of natural disaster」	2025 年 5 月	Ulaanbaatar dialogue, Ulaanbaatar, Mongolia	
23	Yoshinao Tamai	「Can Multilateral Disaster Prevention Cooperation Promote the Formation of an Asian OSCE?」	2025 年 9 月	Roundtable on the Future Framework for an Asian Version of the CSCE/OSCE, Tokyo, Ritsumeikan Tokyo Campus	
24	Yuichi Inobori	「Bridging HCI and Industrial Manufacturing」	2025 年 4・5 月	CHI2025, Association for Computing Machinery, Yokohama	Saki Suzuki, Kenshimyo Terao, Soichiro Iga, Hiroshi Yasuda, Tom Igoe, Wendy Ju, Ilan Mandel, Nikolas Martelaro, Amritansh Kwatra, Lionel Peter Rober
25	Saoru Goto	「In-house design as a driver of dynamic capabilities: How does Sony respond to changes in the external environment?」	2025 年 6 月	32nd Innovation and Product Development Management Conference, European Institute for Advanced Studies in Management, Port	Takuo Ando
26	Satoru Goto, Oki Nakamura	「AP-Based LLM Story Generation: Envision Technology Development Through Science Fiction」	2025 年 9 月	the IEEE 13th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2025), Osaka	Menghan Zhang, Zifan Ye, Pratch Suntichaikul, Ruck Thawonmas
27	Satoru Goto, Oki Nakamura	「Bring Your Own Story: Generating Interactive Visual Novels with AI」	2025 年 9 月	the IEEE 13th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2025), Osaka	Zifan Ye, Menghan Zhang, Pratch Suntichaikul, Ruck Thawonmas
28	中川毅	「水月湖 SG06 コアの化石花粉データ (7~48ka)」	2025 年 5 月	千葉、幕張メッセ	
29	中川毅	「水月湖 SG06 コアの化石花粉データ (7~48ka) (招待講演)」	2025 年 5 月	日本地球惑星科学連合 2025 年大会	
30	山田圭太郎, 中川毅	「グラフ理論に基づく対比モデルの効率的な構築・管理手法の提案」	2025 年 5 月	ポスター報告、日本地球惑星科学連合 2025 年大会 (JpGU Meeting 2025), 千葉、幕張メッセ	
31	宮脇昇、SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「地域の歴史とレジリエンス—文化、制度の知恵を現代に活かす」	2025 年 11 月	2025 年度 R-GIRO 公開シンポジウム (ラウンドテーブル)「レジリエンスを語る—昔の知恵から未来のヒントまで」, 立命館大学 環太平洋文明研究センター, 京都・立命館大学	
32	SAUCEDO SEGAMI Daniel Dante	「遺産と社会的記憶—ペルー・カハマルカ州パコパンバ村における考古遺産と無形文化遺産の統合戦略—」	2025 年 12 月	古代アメリカ学会 第 30 回研究大会, 大阪・国立民族学博物館	關雄二
33	莊司一歩	「圧痕レプリカ法によるクントゥル・ワシ遺跡出土土器の分析」	2025 年 12 月	古代アメリカ学会 第 30 回研究大会, 大阪・国立民族学博物館	井口欣也, ビクトル・バスケス, テレサ・ロサーレス
34	莊司一歩	「ブラヤ・クレプラス遺跡における建築編年の確立と資源利用の変化に関する予備的考察」	2026 年 1 月	学術変革領域研究(A) マテリアマインド物心共創人類史学の構築 第4回全体会議, 東京・慶応義塾大学	

35	山本睦	「アンデス形成期のフロンティアにおける地域間交流」	2025 年 12 月	古代アメリカ学会 第 30 回研究大会, 大阪・国立民族学博物館	オスカル・アリアス
36	鎌谷かおる	「明日、なに食べる？ー過去の「食」を知ることは、未来の「食」を変えることーアジェンダ 2025 共創プログラム」	2025 年 6 月	大阪・関西万博・テーマウィークスタジオ	上田朋佳, 三浦加帆
37	鎌谷かおる	「琵琶湖は誰のものかー生業から考える「場」の利用・共有・所有ー」	2025 年 8 月	第 64 回 近世史サマーセミナー2025, 滋賀県高島市,ホテル可以登	
38	鎌谷かおる	「琵琶湖のめぐみ・土地のめぐみとおみやげ文化」	2025 年 8 月	アジア食学会第 2 回研究大会,第 15 回アジア食学論壇第 1 回サーキュラー,滋賀県草津市,立命館大学びわこくさつキャンパス	上田朋佳, 三浦加帆
39	鎌谷かおる	「江戸時代の絵双六にみる名産品とおみやげ文化」	2025 年 8 月	アジア食学会第 2 回研究大会・第 15 回アジア食学論壇, 滋賀県草津市,立命館大学びわこくさつキャンパス	
40	鎌谷かおる	「日本におけるフードテックの萌芽を探るー江戸時代の「食」と「技」ー」	2025 年 12 月	国文研 DDH プロジェクト第 1 回国際研究集会「古典テキストの最前線ー夢の書庫を開くー」,東京都立川市・国文学研究資料館 2 階大会議室	上田朋佳, 三浦加帆
41	鎌谷かおる	「江戸時代のフードテックー日本のフードテックの原点を探るー」	2025 年 10 月	SKS JAPAN 2025,ポスター発表,東京都・中央区日本橋 COREDO 室町テラス	
42	鎌谷かおる	「江戸時代の海藻と水草」	2026 年 3 月	第一回海藻サミットー海藻から見る、海・食・未来, 京都市右京区・京都調理師専門学校	
43	保井智香子	「地域在住高齢者への効果的な食支援に向けた探索的質的研究ー複線経路等至性モデリング (TEM) を援用した分岐点分析ー」	2025 年 5 月	TEA と質的環境学会第 4 回大会, 愛媛県松山市・人間環境大学松山道後キャンパス	石田由美子, 久藤麻子, 太田はるか
44	保井智香子	「女子大学生の低体重に関連する生活要因」	2025 年 6 月	一般社団法人日本家政学会第 77 回大会, 横浜市,横浜国立大学	石田由美子, 柳原八起
45	保井智香子	「大学生女子陸上競技選手の心理状態と食行動・食意識・競技レベルとの関連」	2025 年 8 月	第 11 回日本スポーツ栄養学会,福岡,中村学園大学	室月里莉花
46	保井智香子	「中学生女子バレーボール選手の競技力向上のための身体づくりに関する検討」	2025 年 8 月	第 11 回日本スポーツ栄養学会,中村学園大学,福岡県福岡市	石田由美子, 本田智巳, 室月里莉花
47	保井智香子	「中学生女子バレーボール選手の競技レベル別朝食内容と心的エネルギー水準」	2025 年 9 月	第 72 回日本栄養改善学会学術総会, 東京,東京農業大学	石田由美子, 本田智巳, 東山明子, 船越正康
48	保井智香子	「大学ラグビー選手のポジションによる人柄類型および食行動に関する検討」	2025 年 9 月	日本スポーツ心理学会第 52 回大会, 京田辺市, 同志社大学	東山明子, 船越正康
49	保井智香子	「女子大学生の食生活に関する横断調査ー管理栄養士養成課程に在籍する学生との比較ー」	2025 年 11 月	日本栄養改善学会近畿支部, 第 24 回日本栄養改善学会近畿支部学術総会, 姫路市・兵庫県立大学	石田由美子, 本田智巳, 中村富予, 竹山育子
50	保井智香子	「フィトケミカルを含む食品の摂取と前立腺肥大との関連を明らかにするための長期間前向きコホート」	2025 年 11 月	日本栄養改善学会近畿支部, 第 24 回日本栄養改善学会近畿支部学術総会, 姫路市・兵庫県立大学	中村富予, 塩谷亜希子, 竹山育子, 石川秀樹
51	保井智香子	「大学女子陸上競技選手における居住形態別にみた栄養素等摂取量及び競技レベルの比較」	2026 年 2 月	日本健康体力栄養学会, 第 33 回日本健康体力栄養学会大会, 徳島市・ふれあい健康館	佃光紗, 中村絵美, 川上由紀子, 高尾理樹夫
52	保井智香子	「中高年女性の C-Reactive Protein 値と血圧との関連性」	2026 年 2 月	日本健康体力栄養学会, 第 33 回日本健康体力栄養学会大会, 徳島市・ふれあい健康館	高尾理樹夫, 藤田由江, 川上由紀子, 中村絵美
53	保井智香子	「女子陸上競技選手の体組成および栄養摂取状況」	2026 年 2 月	日本健康体力栄養学会, 第 33 回日本健康体力栄養学会大会, 徳島市・ふれあい健康館	中村絵美, 富山朝代, 金岡有奈, 川上由紀子, 保井智香子, 高尾理樹夫

54	保井智香子	「味噌汁の塩分濃度と食習慣・味覚に関する研究」	2026 年 2 月	日本健康体力栄養学会, 第 33 回日本健康体力栄養学会大会, 徳島市・ふれあい健康館	川上由紀子, 高尾理樹夫, 中村絵美
55	保井智香子	「大学生の朝食摂取頻度および運動習慣と精神健康度との検討」	2026 年 3 月	内田クレペリン精神検査研究会, 第 15 回内田クレペリン精神検査研究会, 大阪市・大阪産業大学梅田サテライトキャンパス	室月莉里花, 東山明子, 船越正康
56	矢野 健一, Corey Tyler Noxon	「土器量変化を利用した人口推計の課題ー京都大学構内遺跡群の事例研究ー」	2025 年 4 月	考古学研究会, 考古学研究会第 71 回総会・研究集会, 岡山市, 岡山大学	
57	矢野 健一, Corey Tyler NOXON,	「葛籠尾崎湖底遺跡における土器分布調査成果の概要」	2025 年 7 月	日本文化財科学会, 日本文化財科学会第 42 回大会, 福岡市, 九州大学	熊谷道夫, 西田祐也, 杉松治美, 柏谷健二, 井上昇悟, 宮川亮
58	矢野健一	「縄文集落と貯蔵穴」	2025 年 10 月	考古学フォーラム, 考古学フォーラム定例会 2025 その 2, 名古屋市市中村区・ふれあい貸し会議室名古屋	
59	矢野健一	「人口論からみた地域社会」	2026 年 3 月	関西縄文文化研究会, 第 20 回記念研究集会, 京都市左京区・京都大学	
60	木村道徳	「基礎自治体の総合計画を対象とした自然共生社会と気候変動施策間の関係性の可視化」	2025 年 12 月	ポスター発表, 2025 年度環境情報科学研究発表大会, 日本大学会館	岩川貴志, 金再奎
61	那須浩郎	「登呂遺跡実験田の種実調査からみた弥生時代の水稲栽培」	2025 年 5 月	日本考古学協会第 91 回大会, 一般社団法人日本考古学協会、筑波大学筑波キャンパス	篠原和大, 稲垣栄洋, 菊地有希子, 辻康男, バンダリ スダルシヤン
62	那須浩郎	「唐古・鍵遺跡史跡公園の実験水田における雑草植生と埋土種子の関係」	2025 年 11 月	ポスター発表, 第 40 回日本植生史学会大会, 岡山理科大学	松元美由紀, 藤田三郎, 岡田憲一
63	那須浩郎	「弥生時代のイネの古代ゲノム解析」	2026 年 3 月	日本育種学会 149 回大会, 茨城大学	大田竜也, 石川亮, 濱田竜彦, 寺井洋平
64	藤木利之, 山田和芳	「松江城四十間堀川から得られた堆積物の花粉分析による都市環境の変化」	2025 年 8 月	日本第四紀学会、島根大学	岡野美郷, 西野愛理, 瀬戸浩二, 香月興太, 鹿島薫, 辻本 彰, 田中陶子, 中西利典
65	藤木利之, 山田和芳	「人工水域堆積物を用いた都市環境史復元の可能性と課題」	2025 年 8 月	ポスター発表, 日本第四紀学会, 島根大学	岡野美郷, 金子純也, 中西利典, 瀬戸浩二, 香月興太, 辻本彰, 鹿島薫, 井上淳
66	藤木利之, 山田和芳	「フィリピンルソン島中央平原のマール湖・パイタン湖の湖底堆積物中の珪藻群集を用いた過去数千年間の古環境復元」	2025 年 8 月	ポスター発表, 日本第四紀学会, 島根大学	大下智博, 香月興太, 瀬戸浩二, 辻本彰, 奥野充, 中西利典
67	藤木利之, 山田和芳	「ITRAX コアスキャナーを用いた皇居外苑濠堆積物に記録される古環境（予報）」	2026 年 1 月	汽水域合同研究発表会 2026, 島根大学	瀬戸浩二, 香月興太, 中村京右, 奥山音, 小林千彩子, 井上淳, 中西利典, 辻本彰, 鹿島薫
68	藤木利之, 山田和芳	「フィリピンルソン島南部モヒキャップ湖の珪藻群集を用いた後期完新世の古環境復元」	2026 年 1 月	汽水域合同研究発表会 2026, 島根大学	大下智博, 香月興太, 中西利典, 奥野充
69	藤木利之	「地形学・地質学的手法による秋田県湯沢市, コケ沼湿原の形成史復元」	2026 年 2 月	国際火山噴火史情報研究集会 EHAI 2025-2, 福岡大学	平田竣也, 奥野充, 林優樹, 黒木瞭, 藤木利之, 林田明, 中西利典, 南雅代, ホン ワン
70	藤木利之	「南アルプス千枚岳南東斜面, 駒鳥池の湿原堆積物の層序と環境変遷」	2026 年 2 月	国際火山噴火史情報研究集会 EHAI 2025-2, 福岡大学	富満千尋, 林田明, 中西利典, 南雅代, ホン ワン, 松村虹希, 新地青空, 奥野充
71	藤木利之	「秋田県南部沿岸域にみられる火山泥流および津波堆積物について」	2026 年 2 月	日本地質学会西日本支部第 176 回例会, 岡山理科大学	平松和真, 檜垣翔一, 駒木野智寛, 鎌滝孝信
72	藤木利之	「山形県酒田市飛島にみられるイベント堆積物の成因と形成年代」	2026 年 2 月	日本地質学会西日本支部第 176 回例会, 岡山理科大学	檜垣翔一, 角田海斗, 駒木野智寛, 植松暁彦, 鎌滝孝信
73	藤木利之	「秋田県湯沢市, コケ沼湿原の形成史復元: 特に浮島の成因について」	2026 年 3 月	第 37 回名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム, 名古屋大学	平田竣也, 黒木瞭, 林田明, 中西利典, 南雅代, 門叶冬樹, ホン ワン, 林優樹, 奥野充

74	藤木利之	「南アルプス千枚岳南東斜面、駒鳥池の泥炭堆積物の層序と放射性炭素年代」	2026 年 3 月	第37回名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究シンポジウム, 名古屋大学	富満千尋, 林田明, 中西利典, 南雅代, ホン ワン, 松村虹希, 新地青空, 奥野充
75	福本侑	「松江城堀コア試料から得られた珪藻遺骸群集—珪藻汚濁指数の人新世環—」	2025 年 8 月	日本第四紀学会, 島根大	鹿島薫
76	山田和芳	「海跡湖の炭素貯蔵量の変遷におよぼす人為活動の影響」	2025 年 8 月	日本第四紀学会, 島根大	香月興太, 瀬戸浩二, 仲村康秀, 辻本彰, 園田武
77	玉井良尚	「旧日本陸軍は軍事戦略において河川をどのように見ていたか—ハルハ河戦争を手がかりとして—」	2025 年 6 月	軍事史学会, 令和 7 年度 (第 59 回) 年次大会, 松山市・松山大学	
78	玉井良尚	「大学教育におけるゲーミングの効果—難民問題を事例に—」	2025 年 12 月	国際安全保障学会, 2025 年度年次大会, 名古屋市・名古屋大学東山キャンパス	山上亜紗美
79	富田敬大	「モンゴルにおける寒雪害(ゾド)に対する認識と対応—社会主義期の宣伝映画に着目して—」	2025 年 6 月	日本沙漠学会, 第 36 回学術大会, 青森・弘前大学	
80	福田耕治	「AI 倫理と公益—EU の AI 法・AI 倫理ガイドラインと医療 DX を事例として—」	2025 年 10 月	日本公益学会, 第 26 回研究大会, 酒田市・東北公益文科大学	福田八寿絵
81	宮脇昇	「企画セッション『合意作成ゲームを作ってみる』」	2025 年 5 月	日本シミュレーション&ゲーミング学会, 2025 年度春期全国大会, 東京・東京科学大学	
82	宮脇昇	「日露戦争時の松山収容所: 城北練兵場の病室と医療体制」	2025 年 6 月	軍事史学会, 令和 7 年度 (第 59 回) 年次大会, 松山市・松山大学	
83	宮脇昇	「モンゴルの非核化」	2025 年 8 月	グローバルサウスと核研究会, オンライン	
84	宮脇昇	「CSCE の誕生と継続をめぐる不均衡なプロセス」	2025 年 10 月	日本国際政治学会, 2025 年度研究大会, 神戸市・神戸国際会議場	
85	上平崇仁	「営巣本能の発現に着目した公共空間のプロトタイプング手法」	2025 年 6 月	日本デザイン学会第 72 回春季研究発表大会ポスター発表, 日本デザイン学会, 札幌・札幌市立大学	太田蒼良
86	上平崇仁	「モノに靈性を見出す装置としてのカプセルトイ—都市生活者が失った価値基準を再発見するには—」	2025 年 6 月	日本デザイン学会第 72 回春季研究発表大会ポスター発表, 日本デザイン学会, 札幌・札幌市立大学	市川千馬
87	シン ジュヒョン	「世界のヘルスケアゲームの現況」	2025 年 7 月	京都シリアスゲームサミットキーノート, 京都シリアスゲームサミット, 京都・ホテルアンテルーム京都	
88	シン・ジュヒョン	「誰もが参加できるゲーム環境へ: アクセシビリティの理論と実践」(ポスター発表)	2025 年 10 月	障害学国際セミナー 2025, 茨木市・立命館大学いばらきキャンパス	川端 美季
89	西尾善太	「ハロハロ・トーク: フィリピン研究ビギナーズ交流会」	2025 年 6 月	第 30 回フィリピン研究会全国フォーラム, 東京大学駒場キャンパス	
90	西尾善太	「『人間の都市』について」	2025 年 7 月	第 44 回 GS 都市論読書会, けんちくセンター-CoAK	
91	村尾るみこ	「アジア・アフリカにおける有機物循環と燃焼に関する研究」	2025 年 7 月	総合地球環境学研究所有機物循環プロジェクト研究会, 京都・総合地球環境学研究所	
92	井登友一	「ゼブラの事業はどこから来るのか? —アトツギ企業 3 社のゼブラ化事例から考える—」	2025 年 11 月	ZEBRASACADEMIA 2025, 京都市・京都大学芝蘭会館	渡邊文隆, 佐藤真陽

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名

1	立命館大学サマースクール	福井県年縞博物館 ・若狭三方縄文博物館	2025 年 7 月	47	立命館大学古気候学研究センター, 福井県年縞博物館, 若狭三方縄文博物館
2	日本とペルーにおけるディアスポラ研究: 国際共同研究の新たな視点	OIC カンファレンスホール	2025 年 9 月		
3	Bringing Jōmon and Coast Salish Archaeologies into Conversation	OIC カンファレンスホール	2025 年 10 月		
4	2025 年度 R-GIRO 公開シンポジウム「レジリエンス を語る一昔の知恵から未来のヒントまで」	衣笠キャンパス	2025 年 11 月		
5	Glocal SDGs シンポジウム in ちちぶ〜流域の地域循環共生兼・荒川	秩父宮記念市民会館	2026/年 3 月	200	公益財団法人 三千年の未来会議
6	第 19 回健康医療開発機構シンポジウム	東大医科研講堂	2026 年 3 月	150	
7	第 2 回研究方法論研究会	オンライン	2025 年 4 月	10	
8	第 3 回研究方法論研究会	オンライン	2025 年 5 月	10	
9	第 4 回研究方法論研究会	オンライン	2025 年 7 月	10	
10	第 5 回研究方法論研究会	オンライン	2025 年 10 月	10	
11	第 6 回研究方法論研究会	オンライン	2026 年 1 月	10	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	中川毅	報道発表「「暴れる気候」解明へ 若狭町で会議 研究者ら調査を共有」	県民福井	2025 年 4 月	
2	中川毅	報道発表「「暴れる気候」研究発表 若狭町でプロジェクト会議 教授ら 40 人、水害リスク予測など」	福井新聞	2025 年 4 月	
3	中川毅	報道発表「水月湖の年縞調査に向け 湖畔に調査拠点設置 若狭町」	NHK	2025 年 4 月	
4	中川毅	報道発表「水月湖の年縞掘削 「暴れる気候」への備えに」	福井新聞	2025 年 5 月	
5	中川毅	報道発表「福井の恐竜・年縞博物館 巡る特別ツアー 研究者が解説、県観光連盟主催」	日本経済新聞	2025 年 5 月	
6	中川毅	報道発表「水月湖年縞 有終の掘削 ...6 月から 11 年ぶり」	読売新聞	2025 年 5 月	
7	中川毅	報道発表「積み重なる 7 万年分の地層「年縞」 福井県若狭町の水月湖で 11 年ぶり調査、気候変動解明へ」	中日新聞	2025 年 5 月	
8	中川毅	報道発表「年縞 11 年ぶり掘削調査 水月湖 過去の自然災害解明へ」	中日新聞	2025 年 6 月	
9	中川毅	報道発表「年縞調査「県も情報発信」 若狭町・水月湖掘削控え記念式典」	県民福井	2025 年 6 月	
10	中川毅	報道発表「湖の地層から人類の過去・現在・未来を解明 水月湖「年縞」11 年ぶり掘削へ 「暴れる気候」迫る 福井県若狭町」	福井新聞	2025 年 6 月	
11	中川毅	「しま模様の地層「年縞」の調査前に記念式典 若狭町 水月湖」	NHK	2025 年 6 月	
12	中川毅	「「年代測定のものさし」精度向上へ 三方五湖の一つ・水月湖で 11 年ぶりの年縞の掘削調査 気候変動の解明を」	FBC 福井放送	2025 年 6 月	
13	中川毅	「「奇跡の湖」で 11 年ぶりに年縞の掘削へ 水月湖に眠る 7 万年分の年代の「世界標準のものさし」高精	福井テレビ	2025 年 6 月	

		度化」		
14	中川毅	「水月湖で"年縞"特別クルーズ 学芸員が船上解説、掘削調査の現場 「すごい」世界標準のものさし 7 月7日にも開催予定」	FBC 福井放送	2025 年 6 月
15	中川毅	「マヤ文明 芸術の都 古代都市ウ シュマル遺跡(メキシコ)」	TBS 世界遺産	2025 年 6 月
16	中川毅	「福井県・水月湖で 11 年ぶりに年 縞掘削 「暴れる気候」の影響探る」	日本経済新聞	2025 年 6 月
17	中川毅	「いまからサイエンス」	BS テレビ東京	2025 年 6 月
18	中川毅	「水月湖で 11 年ぶり「年縞」調査 に向け作業開始 福井 若狭町」	NHK	2025 年 6 月
19	中川毅	「年縞の掘削が 11 年ぶりにスター ト 7 万年かけて積み重なった“縞 模様”が残る水月湖 気候変動の解 明へ世界が注目【福井】」	福井テレビ	2025 年 6 月
20	中川毅	「発見！あおもり深世界 縄文人 もじゃっぱ汁が大好き？～大平山 元遺跡～」	NHK 青森放送局,	2025 年 6 月
21	中川毅	「気候変動解明のカギ“年縞”」	TBS NEWS DIG,	2025 年 6 月
22	中川毅	「縄文人の暮らしを変えた“暴れる 気候“…水月湖の年縞に刻まれてい た「鬼界アカホヤ噴火」と、古代日 本人の試練」	講談社ホームページ BluebacksWEB,	2025 年 7 月
23	中川毅	報道発表「年縞掘削 船から見学 若狭町・水月湖 研究者 2 人が解 説」	中日新聞	2025 年 7 月
24	中川毅	報道発表「水月湖年縞調査 研究第 一人者、担当業者が対談 二人三脚 の“絆”も披露 若狭町 掘削、深 さ 69 メートルに到達」	福井新聞 D 刊	2025 年 7 月
25	中川毅	報道発表「「10 年に 1 度」の気象が 頻出する理由 奇跡の湖が伝える 暴れる気候」	朝日新聞	2025 年 7 月
26	中川毅	報道発表「年縞掘削を船から見学 若狭町・水月湖で 11 年ぶり調査、 立命館大教授が仕組みや技術解説」	中日新聞	2025 年 7 月
27	中川毅	「「気候変動の実態解明につなげたい」水月湖の年縞調査を記念してト ークショー 研究者や技術者がこ れまでの苦労語る 若狭町」	FBC 福井放送	2025 年 7 月
28	中川毅	「「気候変動の実態解明につなげたい」水月湖の年縞調査を記念してト ークショー 研究者や技術者がこ れまでの苦労語る 若狭町」	日テレ NEWS NNN	2025 年 7 月
29	中川毅	「「気候変動の実態解明につなげたい」水月湖の年縞調査を記念してト ークショー 研究者や技術者がこ れまでの苦労語る 若狭町」	dmenu ニュース	2025 年 7 月
30	中川毅	「福井 若狭町“奇跡の湖”水月湖 地層の採掘現場の見学会」	NHK	2025 年 7 月
31	中川毅	「世界の年代のものさし 三方五 湖・水月湖の年縞 掘削地点の見学 ツアー」	FNN プライムオンライン	2025 年 7 月
32	中川毅	「世界の年代のものさし 三方五 湖・水月湖の年縞 掘削地点の見学 ツアー【福井】」	福井テレビ	2025 年 7 月
33	中川毅	「異常気象のメカニズム解明につ ながる？福井県にある“奇跡の湖” で縞模様の地層「年縞」の調査進む」	TBS NEWS DIG,	2025 年 7 月
34	中川毅	「異常気象のメカニズム解明につ ながる？福井県にある“奇跡の湖”	MBS NEWS,	2025 年 7 月

		で縞模様の地層「年縞」の調査進む」		
35	中川毅	「『暴れる気候』と水月湖年縞掘削(1)」	講談社ホームページ BluebacksWEB,	2025 年 8 月
36	中川毅	「『暴れる気候』と水月湖年縞掘削(2)」	講談社ホームページ BluebacksWEB,	2025 年 8 月
37	中川毅	報道発表「11 年ぶり掘削の年縞つぶさ 県博物館など特別展 “生々” の資料展示 若狭町 仮設研究棟再現も」	福井新聞	2025 年 10 月
38	中川毅	報道発表「年縞掘削調査振り返る 若狭町 2 博物館で特別展」	中日新聞	2025 年 10 月
39	中川毅	報道発表「水月年縞 採取したまま」	読売新聞	2025 年 10 月
40	中川毅	報道発表「新たな世界標準の"ものさし"に期待 11 年ぶり掘削の"年縞"前回の「10 倍」の精度で分析進む 3 年後の発表目指す」	FBC 福井放送	2025 年 11 月
41	中川毅	「暴れる気候と暴れない気候:人類は「予測不可能」な時代をどのように生き延びたか」	電通総研フューチャー・インパクト・フォーラム、東京	2025 年 11 月
42	中川毅	「『暴れる気候』と人類の過去・現在・未来:人類は「予測不可能」な時代をどのように生き延びたか」	社会問題解決推進機構年次フォーラム	2025 年 11 月
43	中川毅	「時を刻む湖:7 万枚の地層を堀り抜き、数え上げた研究者たち」, J-DESC 市民講演会「地球・生命・歴史 時間旅行のはじまり!—掘削でひらくタイムトンネル—」	東京	2025 年 11 月
44	中川毅, 北場育子	報道発表「『暴れる気候』に挑む 7 人の研究者 P50-65」	講談社 MOOK (編: 講談社×GOOMO) Tropic Vol.1	2025 年 12 月
45	中川毅	「暴れる気候と暴れない気候:人類は「予測不可能」な時代をどのように生き延びたか」	深田地質研究所談話会、東京	2026 年 1 月
46	中川毅	「知的探求フロンティア タモリ・山中伸弥の!?第4回「巨大噴火が“日本人”を生んだ!？」	NHK	2026 年 1 月
47	SAUCEDO Daniel	「現代都市のパブリック考古学研究—ペルーリマ市における地域住民による遺跡保護の促進—」	文化遺産国際協力コンソーシアム第 24 回中南米分科会, オンライン	2025 年 7 月
48	SAUCEDO Daniel	「日本とペルーにおけるディアスポラ研究:国際共同研究の新たな視点」	立命館大学,大阪,	2025 年 9 月
49	北場育子	「招待講演 (スペシャルレクチャー) マヤ文明の謎を解くためにメキシコの湖を掘りまくった話:気候変動は偉大な文明を衰退に追いやったのか?」	千葉,幕張メッセ	2025 年 5 月
50	鎌谷かおる	歴史探偵「江戸グルメ」	VTR 出演, NHK	2025 年 7 月
51	鎌谷かおる	「江戸時代の『食』から見えてくる私たちの『暮らし』」	彩の国・校友の集い「第 36 回 総会」, 立命館東京キャンパス	2025 年 9 月
52	鎌谷かおる	「『食』から考える日本史」	学びのプラットフォーム MIRAI, 京都市・立命館大学朱雀キャンパス	2025 年 10 月
53	鎌谷かおる	「戦争秘話 (3) 子供達の『食』」	ふるさと学習講座「あいがもけんぶん塾」, 滋賀県東近江市・蒲生コミュニティセンター	2025 年 10 月
54	鎌谷かおる	「江戸時代のフードテック—日本のフードテックの原点を探る—」	京都フードテックエキスポ 2025, 京都市・けいはんなオープンイノベーションセンター	2025 年 10 月
55	鎌谷かおる	「歴史探偵—ニッポンカツオだし浪漫—」	VTR 出演, NHK	2025 年 11 月
56	鎌谷かおる	「江戸時代のおもてなし—幕末堅田の献立帳—」	本福寺文化講座 堅田歴史探求, 滋賀県大津市・本福寺	2025 年 11 月
57	鎌谷かおる	「現代を捉え未来を描くレジリエンス—人類史からのヒント」	R-GIRO・「レジリエンスを語る—昔の知恵から未来のヒントまで」, 京都市北区・立命館大学図書館	2025 年 11 月

58	鎌谷かおる	「人と自然の関係史—『食』を起点にすることで見えてくるもの—」	日本生態学会 第29回公開講演会, 京都市・国立京都国際会館	2026年3月
59	郡山志保	「膳所藩 膳所藩領内で生まれた安民講」	『びわ湖からみーな』VOL.160. pp.22-23,	2025年4月
60	郡山志保	「江戸時代の飢饉と救荒食」	阪神シニアカレッジ,宝塚市	2025年6月
61	郡山志保	「歴史は困難に対処する知恵のアーカイブ」	R-GIRO「レジリエンスを語る—昔の知恵から未来のヒントまで」, 京都市北区・立命館大学図書館	2025年11月
62	郡山志保	「江戸時代の“食リスク”対策とは—膳所藩「安民録」からみる食糧貯蓄—」	「ひらく、ミライの扉」 — これからの科学/技術をつくる人たち	2025年10月
63	保井智香子	「救援活動拠点・避難所の配置と地理学の貢献」	『E-journal GEO』20巻1号, pp.21-24, 2024年春季学術大会シンポジウム, 公益財団法人日本地理学会	2025年6月
64	保井智香子	「運動終了後の補食について」	第84回地域連携講座, 滋賀県・滋賀ダイハツアリーナ大会議室	2025年11月
65	保井智香子	「体と心の健康を高めるための食事とは」	RADIANT Latest	2026年1月
66	矢野健一	「びわ湖の底の水中遺跡 古墳時代の「かめ」沈む様子撮影に成功」	『NHK おはよう日本』, NHK,	2025年9月
67	矢野健一	葛籠尾崎湖底遺跡での土器集中映像報道	NHK ニュースーン	2025年10月
68	矢野健一	「縄文時代から弥生時代への移り変わり」	令和7年度秋田県埋蔵文化財センター講演会, 秋田市・秋田市民交流プラザ多目的ホール	2025年10月
69	矢野健一	「縄文時代の考古学第1回 縄文時代研究の歴史」	古代学講座, 京都市中京区・京都文化博物館	2025年10月
70	矢野健一	「琵琶湖の湖底遺跡」	琵琶湖に眠る水中遺跡魅力発掘・発信講演会, 滋賀県高島市・今津東コミュニティセンター	2025年11月
71	矢野健一	「縄文人の暮らし」	京都市右京区・グッドタイムリビング有栖川	2025年11月
72	矢野健一	「縄文時代の考古学第2回 縄文土器」	古代学講座, 京都市中京区・京都文化博物館	2025年11月
73	矢野健一	「縄文社会のレジリエンス」	R-GIRO・「レジリエンスを語る—昔の知恵から未来のヒントまで」, 京都市北区・立命館大学図書館	2025年11月
74	矢野健一	「葛籠尾崎湖底遺跡の謎を解く！」	滋賀県高島市・高島市民会館	2025年11月
75	矢野健一	「琵琶湖の湖底遺跡」	認定NPO法人びわ湖トラスト2025年度ジュニアドクター育成塾, 滋賀県大津市・びわ湖トラスト浜大津研究室	2025年11月
76	矢野健一	「琵琶湖底に眠る縄文土器」	日本経済新聞滋賀版	2025年12月
77	矢野健一	「縄文時代の考古学第3回 土偶と石棒」	古代学講座, 京都市中京区・京都文化博物館	2026年1月
78	矢野健一	「縄文時代の考古学第4回 縄文農耕と人口推移」	古代学講座, 京都市中京区・京都文化博物館	2026年2月
79	矢野健一	「湖底に眠る暮らしと災害」	朝日新聞, 文化面	2026年2月
80	矢野健一	「縄文時代の考古学第5回 縄文集落と墓」	古代学講座, 京都市中京区, 京都文化博物館	2026年3月
81	NOXON, Corey	「Practical Approaches and Possibilities of Photogrammetry Projects」	University of Victoria Anthropology Colloquium Series	2025年10月
82	NOXON, Corey	「Digital Archaeology」	京都市北区・京都府立山城高等学校	2026年2月
83	NOXON, Corey	「Fit to Scale: Photogrammetry project considerations for all shapes and sizes」	International ARC Seminar, Ritsumeikan Art Research Center, オンライン	2025年7月
84	Thom Brian	Newspaper article	“Exchange highlights parallels between Cowichan Tribes, Japan's Jōmon peoples”, Victoria Times-Colonist, https://www.timescolonist.com/local-news/exchange-highlights-parallels-between-cowichan-tribes-japans-jomon-peoples-11298788	2025年10月
85	Thom Brian	Bringing Jomon and Coast Salish Archaeologies into	Colloquium talk, Ritsumeikan OIC	2025年10月

		Conversation		
86	Thom Brian	Op-ed column	"Comment: BC Archaeological Sites are not a 'misfortune': Heritage Conservation Act is in urgent need of reform. Victoria Times Colonist, https://www.timescolonist.com/opinion/comment-bc-archeological-sites-are-not-a-misfortune-11818326	2026 年 1 月
87	市木尚利	「アンデス通信」 67	『古代史海の会』第 114 号, 古代史海の会	2025 年 6 月
88	市木尚利	「特別支援教育とアンデス文明をつなぐ」	『古代アメリカ学会会報』50 号, 古代アメリカ学会	2025 年 7 月
89	Ono,Rintaro	「Archaeological Discoveries in the Indo-Pacific Shed Light on Long-term Subsistence Practices.」【招待有り】	"The Admiral David E. Jeremiah and Mrs. Connie Jeremiah Lecture Series" Center for Asian and Pacific Studies, University of Oregon	2025 年 5 月
90	Ono,Rintaro	「Neolithic Austronesian Fishing and its Beyond」【招待有り】	Institute of Archaeology, National Cheng Kung University (NCKU)	2025 年 5 月
91	Ono,Rintaro	「The Sea Foods and Terrestrial Foods in Wallacea during the Late Pleistocene and Holocene」【招待有り】	Department of Anthropology, National Taiwan University	2025 年 5 月
92	Ono,Rintaro	「Maritime Migration and Resource Use in Wallacea and the Ryukyu Islands」【招待有り】	Department of Anthropology, National Taiwan University	2025 年 5 月
93	小野林太郎	「舟の人類史—移動・漁・信仰」	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう, 国立民族学博物館 本館展示場	2025 年 9 月
94	小野林太郎	「アジア・オセアニアの舟と人類—みんなく舟資料からの検討」	第 560 回みんなくゼミナール 国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール	2025 年 9 月
95	小野林太郎	企画立案・運営等[マオリの伝統芸能 カパハカ（研究公演）]	国立民族学博物館	2025 年 9 月
96	小野林太郎	「舟のお宝グランドライン」	『月刊みんなく』49 巻 (9), 国立民族学博物館, pp2-3	2025 年 9 月
97	小野林太郎	「【関西 時の人】国立民族学博物館 教授…小野林太郎」	NHK 関西ラジオワイド	2025 年 9 月
98	小野林太郎・ 宮原千波	「古代日本の舟とその特徴—船形埴輪と出土船材からの検討」	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 国立民族学博物館 本館展示場	2025 年 10 月
99	小野林太郎	「人類の拡散と舟の歴史(みんなく発 旅・いろいろ地球人)」	毎日新聞朝刊	2025 年 10 月
100	小野林太郎	「海を越えた人類の移住と舟—海域アジア・オセアニアの事例から」	第 565 回友の会講演会、公益財団法人千里文化財団 国立民族学博物館第 5 セミナー室	2025 年 10 月
101	小野林太郎	企画立案・運営等、特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」関連ワークショップ「アウトリガーカヌー模型を作って帆走させよう！」	国立民族学博物館	2025 年 10 月
102	小野林太郎	企画立案・運営等、特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」関連ワークショップ「インドネシア・マドゥーラ島の舟模型を工しよう！」	国立民族学博物館	2025 年 10 月
103	小野林太郎	企画立案・運営等、特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」関連ワークショップ「海の暮らしとバスケットリー月桃ガンシナーづくり」	国立民族学博物館	2025 年 11 月
104	小野林太郎	企画立案・運営等、特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」関連ワークショップ「エアードームによる星の航海—オセアニアの伝統航海」	国立民族学博物館	2025 年 11 月

105	小野林太郎	企画立案・運営等、特別展「舟と人類——アジア・オセアニアの海の暮らし」関連ワークショップ「縄文さんと石斧で丸木舟をつくろう【コース①】」	国立民族学博物館	2025 年 11 月
106	小野林太郎	企画立案・運営等、パネル司会・セッションチェア等、【ワークショップ「縄文さんと石斧で丸木舟をつくろう」関連イベント】縄文さん・関野さんの講演と関連映像の上映 舟と人類をめぐるグレートジャーニー：丸木舟から死体まで	国立民族学博物館	2025 年 11 月
107	小野林太郎	オセアニア 海を渡った人類と謎の巨石（「3 ヶ月でマスターする古代文明」第 9 回）	NHK	2025 年 11 月
108	小野林太郎	企画立案・運営等、パネル司会・セッションチェア等、みんなく映画会「チェチェメニ号の冒険」（特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」関連）	国立民族学博物館	2025 年 11 月
109	小野林太郎	企画立案・運営等、特別展「舟と人類——アジア・オセアニアの海の暮らし」関連ワークショップ「縄文さんと石斧で丸木舟をつくろう【コース②】」	国立民族学博物館	2025 年 11 月
110	小野林太郎	企画立案・運営等、特別展「舟と人類——アジア・オセアニアの海の暮らし」関連ワークショップ「エアードームによる星の航海—オセアニアの伝統航海」	国立民族学博物館	2025 年 12 月
111	小野林太郎	企画立案・運営等、2025 年度東南アジア考古学会研究大会「遺跡のヒストリオグラフィ：考古学・地域研究・文化遺産論」	東南アジア考古学会	2025 年 12 月
112	小野林太郎	企画立案・運営等、特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」 Humans and Boats: Maritime Life in Asia and Oceania	国立民族学博物館	2025 年 9 月・12 月
113	小野林太郎	「最初のアメリカ人は北海道起源？ 日米チーム新仮説、出土品に共通点（コメント）」	朝日新聞デジタル版	2025 年 12 月
114	小野林太郎	「海を越えた人類の移住と舟—海域アジア・オセアニアの事例から（友の会講演会実施報告）」	『国立民族学博物館友の会ニュース』296 巻, pp4	2026 年 1 月
115	小野林太郎	「世界最古の壁画、インドネシアに・・・6 万 7800 年以上前に描かれたことが判明（コメント）」	読売新聞オンライン版	2026 年 1 月
116	小野林太郎	「人類の祖先どう海を越えたか—舟作り渡航「漂流」から風利用の帆へ発展」	朝日新聞	2026 年 1 月
117	北川淳子	世界唯一の泥の博物館をつくった水月湖の年縞とは？	敦賀市読書会文化講演会、敦賀市立図書館	2025 年 6 月
118	木村道徳	「基礎自治体の総合計画を対象とした自然共生社会と気候変動施策間の関係性の可視化」	『環境情報科学』54 巻 1 号, p. 152	2025 年 7 月
119	木村道徳	「気候変動時代を生き抜く知恵をつくろう！～真冬に振り返る真夏の過ごし方ワークショップ～」さざなみタウン長浜まちづくりセンター会議室 I C	近江淡水生物研究所学習会 長浜 MLG s CAFE—ながはまアメンティ会議・オサカナラボ小さなびわ湖水族館	2025 年 12 月
120	坂本勇	ギャラリー・トーク「樹皮布を着る人々」	東京・ルーサイトギャラリー「布々々の布展」	2025 年 7 月
121	坂本勇	「ユース・ケース事例：カジノギに関わる品々に関する語彙」	国立民族学博物館菊澤律子教授科研「時空言語学」の創成：地理と歴史を融合した言語の変化と発展	2025 年 12 月

			への新たなアプローチ」	
122	坂本勇	「DALUANG」	ハイブリッド Webinar, インドネシア国立図書館主催	2026 年 1 月ー2 月
123	坂本勇	「メソ・アメリカの Amate 紙の製作石器ピータと技法」	国立図書館専門スタッフと国立博物館ボランティア・ガイドのための Beaten Bark Paper ワークショップ	2026 年 2 月
124	坂本勇	Prof Isamu Sakamoto Kunjungi Pondok Budaya Betawi Rorotan, Perkuat Literasi Berbasis Daluang	REDAKSI JAKARTA	2026 年 2 月
125	那須浩郎	「ヒトはなぜ農業を始めたのか？～身近な作物の考古学から探る栽培植物の進化と農業の起源～」	岡山理科大学市民公開講座, 岡山理科大学 A1 号館 1 階プレゼンテーションルーム	2025 年 6 月
126	那須浩郎	報道発表「＜赤い豆の始まり＞(下)アズキ種子、年代経るにつれ大型化 縄文人による栽培の謎 烟跡は出土せず 火入れして管理？」	東京新聞デジタル	2025 年 7 月
127	那須浩郎	「弥生の植物研究最前線！」	むきばんだ遺跡土曜講座 第 2 回 とっとり県民カレッジ連携講座、鳥取県立むきばんだ史跡公園	2025 年 9 月
128	那須浩郎	「種から探る弥生時代遺跡」	オトナの考古学講座、鳥取県立むきばんだ史跡公園	2025 年 9 月
129	那須浩郎	「種実同定とフローテーション法の講義と実習」	第 3 回 統合生物考古学技術セミナー「植物考古学―種実の同定と調査方法―」, 岡山理科大学岡山キャンパス	2025 年 10 月
130	那須浩郎	「最新 DNA 研究から探る日本列島における栽培植物の起源と来歴」	考古植物学と植物遺伝学の統合に向けて, 第 40 回 日本植生史学会大会公開シンポジウム, 岡山市国際交流センター	2025 年 11 月
131	那須浩郎	「豊臣秀吉が振舞った酒の肴」を「あんずの種」と同定	NHK ニュース 7	2025 年 12 月
132	東村純子	「古代の布づくりと女性～性差の日本史を読み解く～」	市民大学講座, 中央公民館, 福井県あわら市	2025 年 7 月
133	東村純子	「古代から未来に繋がる いまふく ふみよ 自然の色彩の世界」	第 3 回日本国際芸術祭大手前大学, 関西万博会場 EXPO メッセ「WASSE」	2025 年 7 月
134	東村純子	「はにわから読み解く、古墳時代の衣料事情」	ゆめおーれ勝山, 福井県勝山市	2025 年 9 月
135	東村純子	「弥生時代の麻の糸づくりと布織り」	あいち朝日遺跡ミュージアム 本館 (研修室)	2025 年 11 月
136	福本繁樹	「パプアニューギニア民族美術とエンバ探検隊」	パプアニューギニア民族美術の世界展、丹波市立植野記念美術館	2025 年 4 月
137	福本繁樹	令和 7 年度 第 2 回コレクション展	京都国立近代美術館 コレクション・ギャラリー	2025 年 7・9 月
138	福本繁樹	《エンヤーコーラヤ、ドッコイ ドッコイ ドッコイナ》	第 25 回染・清流展ビエンナーレ 2025, 染・清流館, 京都市	2025 年 10 月
139	福本繁樹	「発現する布ーオセアニアの造形と福本繁樹／福本潮子」	『Magazine for Document & Critic・28 号』, 青森公立大学国際芸術センター	2026 年 3 月
140	山田和芳	「湖に眠るタイムカプセルを探るー湖沼掘削研究の魅力ー」	地球科学普及講演会『地球をぶらり 2025』(オンライン), NPO 法人地学オリンピック日本委員会	2025 年 11 月
141	山田和芳	「Mr.ふじミューの成長日記ー環境史研究のこれからー」	ふじのくに地球環境史ミュージアム	2026 年 3 月
142	玉井良尚	「有事(武力攻撃事態)と水の安全保障」	責任ある鉱物調達研究会「激動の国際情勢下における資源調達」, 秋田県秋田市・秋田大学国際資源学研究科	2026 年 3 月
143	Takahiro Tomita	「A Brief Introduction to Mongolian studies in Japan」	Asian Community Diversity, National University of Mongolia, Mongolia,	2025 年 9 月
144	富田敬大	「白い食べものー草原が支える都市の食卓(モンゴル)」	『アジアと日本 食と味覚の旅』, 立命館大学アジア・日本研究所	2025 年 10 月
145	井登友一	「デザイン経営を実現に導く人材像と HR によるデザイン能力の活性化」	翔泳社 Web メディア「HRzine」	2025 年 5 月
146	井登友一	「メンバー 1 人ひとりがリーダーシップを持ち創造性を発揮する「ジャズバンド型組織」の必要性と HR の役割」	翔泳社 Web メディア「HRzine」	2025 年 6 月

147	井登友一	「コンテキストの視点から HCD の存在論を問い直す」	特定非営利活動法人人間中心設計推進機構, 関西フォーラム 2025, グランフロント大阪ナレッジサロ	2025 年 8 月
148	井登友一	「企業成長を加速させる「組織文化のデザイン」《前編》 組織文化とは何か、そのデザインとは何をするのか」	翔泳社 Web メディア「HRzine」	2025 年 9 月
149	井登友一	「企業成長を加速させる「組織文化のデザイン」《後編》 エフェクチュエーションに基づく具体的アプローチ」	翔泳社 Web メディア「HRzine」	2025 年 9 月
150	井登友一	「デザイン経営の核心を担う HR-次世代の経営エクセレンスを牽引する「組織のデザイナー」へ」	翔泳社 Web メディア「HRzine」	2026 年 2 月
151	小川さやか	報道発表「《多思彩々》多様な視点 大学内外で学んで」	信濃毎日新聞朝刊 4 面	2025 年 4 月
152	小川さやか	「エスノグラフィの新しい可能性を目指して」	アート・リサーチ演習, 有楽町藝大キャンパス (東京・東京藝術大学・有楽町アートアーバニズム YAU), YAU (有楽町アートアーバニズム) /オンライン	2025 年 6 月
153	小川さやか	「ゲーミフィケーションとエスノグラフィ」	Podcast 番組 「デジタルと教育の庭」, 京都芸術大学, Spotify・Web Player	2025 年 6 月
154	小川さやか	「未来を創る〈異〉のカー・タンザニア商人を事例に」	京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム (ELP), 京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム (ELP), 京都・京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール	2025 年 7 月
155	小川さやか	「トークセッション/未知の輪郭をたぐる」	コミュニケーションスペース amu. 恵比寿	2025 年 7 月
156	小川さやか	「贈与を通じて築かれる人間的なセーフティネット」	『さんいんキラリ夏秋号』No.59, pp.67-71, 有限会社グリーンフィールズ	2025 年 8 月
157	小川さやか	「エスノグラフィ・プロトタイプングー人類学者ゲームを通じたオルタナティブな社会の創造」, 「HCD-Net 関西フォーラム 2025, “人間を理解する”という問いー文化人類学・仕掛学・HCD の対話」,	特定非営利活動法人人間中心設計推進機構関西フォーラム 2025, グランフロント大阪ナレッジサロ	2025 年 8 月
158	小川さやか	「教育の場で“ともに”デザインするとは」	東京学芸大学附属小金井小学校	2025 年 8 月
159	小川さやか	「リビングラボ・トーク 特別編「自らでつくる」を取り戻す ～コ・デザインの学びを考える～」	官民共創 HUB	2025 年 8 月
160	小川さやか	報道発表「《多思彩々》空想を可視化 AI の活用法」	信濃毎日新聞朝刊 4 面	2025 年 8 月
161	小川さやか	「「ついで」の論理でこれからの資本主義を考える」	PLANETS School 教養講座, コミュニティ私塾 PLANETS CLUB	2025 年 9 月
162	小川さやか	「資本主義の支配的価値観に依存しない生活とは」	三菱 UFJ 信託銀行次世代経営リーダー研修, 株式会社不識庵,	2025 年 9 月
163	小川さやか	「複数の世界との関係性の再構築ーSXD の輪郭を探るー」	, Impact HUB Tokyo	2025 年 9 月
164	小川さやか	「贈与論を再考するーデザインと人類学の接点からー」	オンライン開催	2025 年 9 月
165	小川さやか	「ピガ・ミスターリ (ひとくちくわてくれよ)」から始まるつながり 社交の場を立ち上げる嗜好品」	TASC MONTHLY 598・11・16, 公益財団法人たばこ総合研究センター	2025 年 10 月
166	小川さやか	「マルチモーダル人類学の可能性とは？」	Tama Design University 配信講義, 多摩美術大学 TUB (Tama Art University Bureau), 東京都港区 (東京ミッドタウン・デザインハブ, オンライン (ハイブリッド))	2025 年 10 月
167	小川さやか	「負債論ー資本主義社会を人類学・人類史の観点から考える」	不識塾秋期講座, 株式会社不識塾東京都千代田区 (ステーションコンファレンス万世橋)	2025 年 11 月
168	小川さやか	「贈与を通じて切りひらく「多様な人生」」	第 63 回全国学生相談研修会, 一般社団法人日本学生相談学会, オンライン (ウェビナー)	2025 年 11 月
169	小川さやか	「現代を捉え未来を描く レジリエンスー人類史からのヒント」	立命館大学 環太平洋文明研究センター, 2025 年度 R-GIRO 公開シンポジウム「レジリエンスを語るー	2025 年 11 月

			昔の知恵から未来のヒントまで」	
170	小川さやか	「アフリカ商人の暮らしから未来の社会をプロトタイプするーゲームを駆使したマルチモーダル人類学の試みー」	らせんの会, 未来型経済の兆しと基盤をアフリカの人々の暮らしに見る, 株式会社 ヒューマンルネッサンス研究所, 喫茶ことぶき	2025 年 11 月
171	小川さやか	「《多思彩々》効率的な鬱憤晴らしの流行ファンクション」	信濃毎日新聞朝刊	2025 年 11 月
172	小川さやか	「都市を生きぬく狡知は、デジタルと教育をどうあるのか」 Podcast 番組 「デジタルと教育の庭」	京都芸術大学, Spotify - Web Player	2025 年 12 月
173	小川さやか	「タンザニアのプラットフォーム経済から考えるデジタル化される未来」	立命館オンラインセミナー講義, 立命館大学 (社会連携課), オンライン	2026 年 1 月
174	小川さやか	「危機における解散ー価値の再考から考えるレジリエンス」, レジリエンス研究室企画「2025 連続講座」	京都大学レジリエンス経営科学研究寄附講座, 京都大学	2026 年 2 月
175	小川さやか	「《多思彩々》「AI 時代の中小都市の姿とは」	信濃毎日新聞朝刊	2026 年 3 月
176	中村大	「考古学×デザイン・アートの挑戦」	第 153 回 国際 ARC セミナー, 京都市・立命館大学	2025 年 10 月
177	中村大	「考古学、デザイン・アート、レジリエンスモデル」	第 5 回環太平洋文明研究センター 研究方法論研究会, 京都市・立命館大学	2025 年 10 月
178	中村大	「地域の歴史とレジリエンスー文化、制度の知恵を現代に活かす」	立命館大学環太平洋文明研究センター, 2025 年度 R-GIRO 公開シンポジウム「レジリエンスを語るー昔の知恵から未来のヒントまで」	2025 年 11 月
179	西尾善太	「都市をつくるのは誰かーマニラからの問いかけ」	『人間の都市ーマニラを鼓動させるジープニーとおっちゃん』出版記念トークイベント	2025 年 4 月
180	村尾るみこ	書評『アフリカから農を問い直すー自然社会の農学を求めて』	杉村和彦・鶴田格・末原達郎編, アフリカおすすめ本, NPO 法人アフリック・アフリカ	2025 年 7 月
181	村尾るみこ	「アフリカ料理と研究・教育・社会実装」	NPO 法人アフリック・アフリカ第 115 回アフリカ先生, イェネガ,	2025 年 8 月
182	村尾るみこ	「移民・難民のレジリエンスに学ぶ共生のかたち」	「ひらく、ミライの扉」ー これからの科学/技術をつくる人たち	2025 年 10 月
183	村尾るみこ	「歴史は困難に対処する知恵のアーカイブ」	立命館大学環太平洋文明研究センター, 2025 年度 R-GIRO 公開シンポジウム「レジリエンスを語るー昔の知恵から未来のヒントまで」	2025 年 11 月
184	村尾るみこ, 郡山志保, 小川さやか, 中村大, 玉井良尚, ノックソン・コーリー	「2024 年度環太平洋文明研究センター研究成果の一般公開報告」	『環太平洋文明研究』, 環太平洋文明研究センター, 10 号, pp.115~118	2026 年 3 月
185	Rumiko Murao	,”A Report on Livelihood of Mbundu Speaking People (Former Refugees) in Zambia”	Video Presentation, UNHCR, Zambia,	2025 年 9 月
186	有馬恵子	「まちに宿る野生ー京都出町・多声的エスノグラフィ」	『世界』, 1003 号, 岩波書店, pp. 239~251	2026 年 2 月
187	内尾太一	「避難後 窮屈さ負担に 他人とすぐ隣／寝られない… 静岡文化芸術大、浜松で実証実験」	静岡新聞 社会面 (27 面)	2025 年 4 月
188	シン・ジュヒョン	「Doing It as Trailblazers! Indie Game Developers in Japan and South Korea」	The Newsletter No.101 Winter 2025, International Institute for Asian Studies	2025 年 10 月
189	シン・ジュヒョン	「誰もが参加できるゲーム環境へ: アクセシビリティの理論と実践」	障害学国際セミナー2025, 茨木市・立命館大学茨木キャンパス	2025 年 10 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	中川毅	日本文化財科学会	日本文化財科学会業績賞	水月湖の年縞堆積物を用いた古気候学研究・年代測定の世界標準への貢献	2025 年 7 月

2	中川毅, 北場育子	学校法人立命館	第1回立命館アワード		2026年2月
3	保井智香子	日本健康体力栄養学会	第33回日本健康体力栄養学会大会, 優秀賞	「大学女子陸上競技選手における居住形態別にみた栄養素等摂取量及び競技レベルの比較」	2026年2月
4	福本繁樹	京都府	第44回(令和7年度)京都府文化賞功労賞		2026年1月
5	小川さやか	公益財団法人 大同生命国際文化基金	大同生命地域研究奨励賞	「東アフリカ諸国のインフォーマル経済に関する研究」	2025年7月

7. 科学研究費助成事業 (科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	北場育子	古代マヤ人が直面した「リアルな」危機：マヤの年はなぜ衰退したのか？	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	代表
2	北場育子	「年編から読み解く『暴れる』気候の歴史」	学術変革領域研究(A)	2024年4月	2028年3月	代表
3	荘司一步	「生態資源利用とモニタリングの生成からみた先史アンデス神殿出現期の研究」	若手研究	2024年4月	2026年3月	代表
4	中川毅	「『暴れる気候』と人類の過去・現在・未来」	科学研究費補助金 [学術変革領域研究(A)]	2024年4月	2028年3月	代表
5	保井智香子	「人柄類型別、精神的健康に着目した健康増進のための栄養教育プログラムの開発」	基盤研究(C)	2024年4月	2027年3月	代表
6	NOXON, Corey	先史人類の人口動態に関する研究	学術変革領域研究(A)	2023年4月	2028年3月	分担
7	小野林太郎	「旧石器時代ホモ・サピエンスの焼石調理法からみた海洋適応の実態解明」	基盤研究(A)	2025年4月	2028年3月	分担
8	小野林太郎	水中考古学で掘り起こす新たな地域・海域史探求の試み：珊瑚礁海域の人類誌	基盤研究(C)	2025年4月	2028年3月	分担
9	小野林太郎	洞窟に記録された災害イベントとその島嶼文化・環境への影響に関する学際的研究	基盤研究(B)	2025年4月	2029年3月	分担
10	鎌谷かおる	石見銀山附幕領における銀山・銅山・鉄山ー非農業世界からみた「幕領社会」論の構築ー	基盤研究(B)	2024年4月	2026年3月	分担
11	鎌谷かおる	地域再生可能エネルギーに関する歴史・社会・経済の統合型研究	挑戦的研究(萌芽)	2022年6月	2026年3月	分担
12	藤木利之, 山田和芳	完新世年縞堆積物を用いた汽水域生態系構造の高分解能復元と周期的気候変動に伴う変化	基盤研究(B)	2024年4月	2026年3月	分担
13	山田和芳	人工水域から都市環境を診る：人新世地理環境学の創成	挑戦的研究(開拓)	2023年6月	2027年3月	代表
14	藤木利之	人工水域から都市環境を診る：人新世地理環境学の創成	挑戦的研究(開拓)	2023年6月	2027年3月	分担
15	藤木利之	淡水湖年縞堆積物を用いた完新世の気候変動と陸域環境応答の高分解能解析	基盤研究(A)	2022年4月	2026年3月	分担
16	内尾太一	「震災起因漂流物と瓦礫ヒッチハイカーの文化人類学」	若手研究	2024年4月	2027年3月	代表
17	玉井良尚	「ポスト・ウクライナ時代に向けた社会インフラの安全保障に関する研究」	若手研究	2024年4月	2027年3月	代表
18	富田敬大	「社会主義モンゴルにおける牧畜の産業化と自然災害に関する研究」	基盤研究(C)	2022年4月	2026年3月	代表
19	福田耕治	「欧州のマルチレベル行政協力の実態調査ー命と生活に関わる領域での EU の新たな試みー」	基盤研究(B)	2024年4月	2027年3月	分担
20	小川さやか	ポスト・ヒューマン時代の〈人間経済〉：アジア、アフリカ、オセアニアからの再構築	基盤研究(A)	2024年4月	2030年3月	分担
21	小川さやか	アフリカ商人の民族誌ゲームの制作・協働を通じたマルチモーダル人類学の展開	基盤研究(c)	2026年4月	2031年3月	代表
22	中村大	先史人類の人口動態に関する研究	学術変革領域研究(A)	2023年4月	2028年3月	代表

23	中村大	日本列島域における先史人類史の総合的復元方法の研究	学術変革領域研究(A)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	分担
24	中村大	初期国家形成期における山城地域の地域開発と地方政体の成長に関する包括的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
25	上平崇仁	デザイン人類学の観点に基づいた脱領域型デザイン教育の再検討	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
26	村尾るみこ	アフリカにおける難民/移民と安全保障ー安全保障化に関する実証・理論的分析	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	中川毅	「暴れる気候」と人類の過去・現在・未来	受託研究 J-Power	2024 年 8 月	2025 年 6 月	代表
2	中川毅	「暴れる気候」と人類の過去・現在・未来	受託研究 J-Power	2025 年 7 月	2026 年 6 月	代表
3	中川毅	水月湖年縞堆積物を用いた三方断層の活動履歴に関する研究（2025 年度）	受託研究 関西電力	2025 年 6 月	2026 年 3 月	代表
4	中川毅	湖成堆積物中の風成物質に関する研究における試料採取（2025 年度）	受託研究 電力中央研究所	2025 年 6 月	2025 年 12 月	代表
5	中川毅	教育研究助成のため	奨学寄付 ゼンショーホールディングス			代表
6	中川毅	教育研究助成のため	奨学寄付 福井県若狭町			代表
7	中川毅	教育研究助成のため	奨学寄付 個人			代表
8	Thom, Brian	Public Archaeology to Shape Knowledge in Our Societies: Bringing Jomon (Japan) and Coast Salish (British Columbia) Archaeologies into Conversation	University of Victoria Internal Research/Creative Project Grant (IRCPG) / SSHRC Explore Grant	2025 年 4 月	2026 年 8 月	PI
9	Thom, Brian	Public Archaeologies in Dialogue: Shaping Policy, Stewardship, and Understanding between Jomon (Japan) and Coast Salish (British Columbia) Traditions	Social Sciences and Humanities Research Council of Canada (SSHRC), Partnership Development Grant	2026 年 3 月	2029 年 3 月	PI
10	郡山志保	「近世日本における『食』に関わる飢饉対応ー備荒貯蓄物・救荒食物を事例にー」	奨励研究 公益財団法人ロッテ財団	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
11	井登友一	「デザイン経営実践による『ゼブラ企業』へのトランジションについての研究」	2025 年度デザイン助成 公益財団法人日本デザイン振興会	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1								